

5月～6月上旬の農作業

気温の変化が激しい時期です。保温・換気に気を配りましょう！

種まき	定植	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・カブ</li> <li>・ニンジン</li> <li>・モロヘイヤ</li> <li>・スイートコーン</li> <li>・サヤインゲン</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト</li> <li>・ミニトマト</li> <li>・ナス</li> <li>・ピーマン</li> <li>・キュウリ</li> <li>など果菜類一般</li> <li>・モロヘイヤ</li> <li>・ネギ</li> <li>・サトイモ</li> <li>・ハクサイ</li> <li>など</li> </ul>	<p><b>【ホウレンソウの播種】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晩抽性品種を用いて、催芽して播きましょう。</li> </ul> <p><b>【野菜苗の定植方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト、キュウリなどの果菜類では、土壌をポリマルチで被覆すると生育効果が高くなります。畝立てを早めに済ませておき、降雨などにより土壌が適度に湿ってからポリマルチで被覆しましょう。マルチは地温を高める他、雑草発生の防止、乾燥防止効果などがあり、後の管理作業が楽になります。</li> <li>・定植時の天候は、苗の活着や初期生育に影響しますので、薄曇りで比較的暖かく、風のない日を選びましょう。</li> </ul> <p><b>【定植時の薬剤処理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト、ピーマン、キュウリなどの果菜類は、アブラムシが非常に好みます。定植直後の株がまだ弱い状態の時にアブラムシが発生すると壊滅することがあるため、定植時には必ず粒剤処理（殺虫剤）を行いましょう。「植穴土壌混和」処理は、植穴へ粒剤を入れるだけでなく、<u>粒剤と土をよく混和し</u>薬害が起こらないようにしてから定植することがポイントとなります。</li> </ul>
	<p><b>収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスパラガス</li> <li>・コマツナ</li> <li>・シュンギク</li> <li>・ニラ</li> <li>など</li> </ul>	

農作業 Q&A ～品種・栽培管理編～

Q1. 果菜類の苗は購入したらすぐに植えた方が良いのですか？

購入後は、なるべく早目に、遅くとも2～3日以内には植え付けを行うようにしましょう。作業計画の中でしばらくは苗を保管しなければならない状況があると思いますが、その場合はポット苗の土が乾かないよう毎朝水やりを行い適切に管理します。

Q2. トマト栽培でホルモン剤（トマトーン）を使用するのは何故ですか？

トマトは低温期が続くと着果が悪くなる傾向があります。このような時期にトマトーンを使用すると着果状態が良くなり収量確保につながります。中段花房の開花期まで低温が続くことがありますので、これまでの間に使用することで収量確保が期待できるようになります。

## 農業豆知識 ～野菜の発芽、生育適温～

### ＜発芽に適した温度とは？＞

左の図1は各野菜の最適発芽温度を表したものです。これを見ると、例えばホウレンソウは15～20℃が最適な発芽温度であることが分かります。ホウレンソウは10℃でも発芽しますが、25℃以上になると休眠状態に入ってしまう発芽率が大きく低下します。最適温度を5℃上回るだけで発芽率に悪影響が出てしまうのです。それくらい発芽と温度には密接な関係があります。

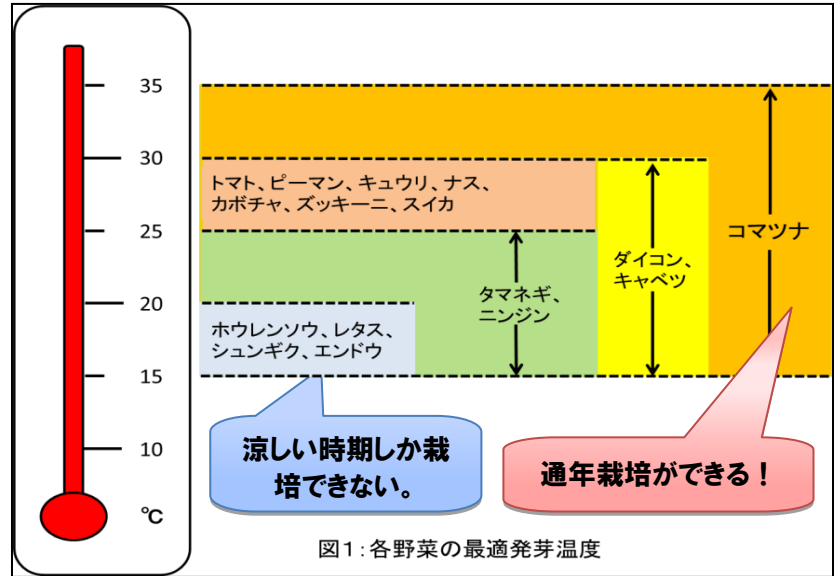


図1: 各野菜の最適発芽温度

### ＜野菜の生育適温とは？＞

近年は、夏季が異常に高温・乾燥状態となつて、作物が“葉焼け”をおこしたり、トマト、ピーマンなどの果菜類では“日焼け果”の発生が多くみられるようになりました。

作物の生育には好的な温度範囲があります(表1: 温度指標)。作物はこの温度域から多少はずれたとしても問題はないのですが、5～10℃も遠くはずれた状態が長く保たれると、作物生育に悪影響がでてきます。例えば、地温が上昇し温度域から遠くはずれた状態が続くと、根の吸水機能に障害が起こり植物体の隅々まで水分が行き渡らなくなることで植物体温が上昇し、やがて生育が停止してしまいます。異常な高温・乾燥状態が続くことが予想されるときは、早朝、夕方に定期的にかん水を行ったり、ハウス栽培では屋根を遮光ネットで覆い直射日光を避けるなどの対策を行ってください。

気温測定についてはなじみがあると思いますが、地温についても地表面から5～10cmの所に温度計を差し込み、一度測定してみることをお勧めします。また「地温(地表面下5cm)の日平均値は、5月初め～8月上旬までは日最高気温と日平均気温の中間値であり、それ以降は日平均気温に類似している」との情報(国: 農研機構)もありますので、気温から地温を推定する際の参考にしてください。

表1 野菜の種類別生育適温(℃)

野菜の種類	昼間気温	夜間気温		地温
	適温	適温	最低維持温度	適温
トマト	25～20	10～8	5	18～15
ナス	28～23	18～13	10	20～18
ピーマン	30～25	20～18	12	20～18
キュウリ	28～23	15～12	10	20～18
スイカ	28～23	18～13	10	20～18
メロン	30～25	20～18	15	20～18
カボチャ	23～18	15～10	8	18～15
イチゴ	23～18	7～5	3	18～15

注) トマトは品種により、夜間適温が上記に+5～+7ある

### あさつゆ連絡

電話番号: 0268-41-1062  
FAX: 0268-41-1063

### 技術事項作成協力

上田農業改良普及センター(木曽)  
電話番号: 0268-25-7156(直通) FAX: 0268-23-2161